



〔 編集後記 〕

すでに立春も過ぎましたが、あらためまして、新春のお慶びを申し上げます。読者諸兄姉におかれましては、本年もますますのご活躍をお祈りいたしますとともに、本誌へのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

お気付きのことと思いますが、また、「お知らせ」にもありますように、本誌は、今号から、和文誌「千葉医学（英語標記: Chiba Igaku）」と英文誌「Chiba Medical Journal（日本語標記: 千葉メディカルジャーナル）」に分かれました。2誌とも、本体は電子ジャーナルとなり、この印刷体冊子は、2誌の合本という形式になります。各誌の電子版はフルカラーとなっておりますし、是非合わせてご覧ください。

和文誌と英文誌に分けた最も主な理由は、文献検索サイトPubMedが検索対象とする文献アーカイブPMC（旧称PubMed Central）に論文が収録されるための要件が、その論文が掲載される雑誌が英文誌であることです。残念ながら、和英論文の混在する雑誌は認められておりません。今後、早めに、PMCへの収録申請をする準備を進めておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。当然、PubMedの検索対象となれば、引用される頻度が増え、本誌の発展に資することは間違いありません。言わば「外圧」の側面が無いとも言えませんが、この機会を積極的に活かしたいと思います。

「千葉医学」と「Chiba Medical Journal」の発刊に合わせ、この冊子の表紙も意匠を新しくしました。前巻までの表紙は、2011年に、本誌がB5

判からA4判に移行した際に、当時の野田公俊編集委員長が考案されたもので、千葉大のシンボルカラーであるガーネット・柘榴（ざくろ）石色を基調に、千葉医学の伝統を象徴する写真に彩られ、7年にわたり親しまれて参りました。

今回は、最近、千葉大の各学部のシンボルカラーが提案され、医学部はライトブルー・水色となったことから、この色を基調とし、獅胆鷹目マークにも取り入れてみました。ご存知のように、獅胆鷹目マークは医学部創立135周年記念事業の際、工学部デザイン工学科の宮崎紀郎名誉教授にデザインしていただいたものです。先生から、色彩については「どうぞ、いろいろお試しください。」とのご教示を頂いておりますので、このような明るい色調も良いのではないかと思います。

もう一つの、医学部本館マークも、やはり宮崎紀郎先生にデザインしていただき、オリジナル版は、2011年の第1回白衣式に際して、白衣の刺繍に採用されたものです。これを、最近、ゐのはな同窓会の済陽高穂会長が、卒業50周年記念メダル用にリメイクされたので、それを譲り受け、さらに多少アレンジさせていただきました。“144th Anniversary”は正しい英語ではないかもしれませんが、今年が医学部創立144年目にあたるという意味です。もう、150周年も近づいて参りました。

本学と本誌のますますの発展を願い、期す次第です。

（編集委員長 瀧口正樹）